

4 児童英語教育のDo's & Don'ts

このように、一口に児童英語教育といっても子供達の発達段階によって能力や感性、興味の対象などが大きく異なります。また、教える内容に偏りがないように、「音声教育」、「発話教育」、「国際(理解)教育」を均等に盛り込む必要があります。英語教育は「言語」の教育ですので、子供達が楽しく安心して自分を表出させることができるようなクラスの雰囲気と指導者の態度が重要な役割を果たします。

1章の締めくくりとして、幼児や児童に英語を教える際にすべきこと、してはいけないことをまとめました。

- 1 指導者は**明るく快活に、大きな声**で子供達と接しましょう。
- 2 教室では指導者が率先して**大きな動作と豊かな表情**を使って英語を話しましょう。子供が日本語に訳すことなく理解できるには「過剰」と思われるくらいの表情と動作が必要です。
- 3 指導者の**温かい微笑み、ユーモア、エネルギー溢れる態度**が子供達の心を開ける最も近道です。
- 4 英語を日本語に訳すのではなく、**フラッシュカードや実物**を用意しましょう。また、指導者の表情や動作も大切です。
- 5 英語は子供達1人1人が理解できるように、**ゆっくりと何度も繰り返し**言いましょう。また、指導者は子供が言った言葉をもう一度 full sentence で繰り返しましょう。指導者が言ったことを子供達に復唱させましょう。活動やゲームを何度か繰り返して、**子供達全員が英語を話す機会**を作りましょう。
- 6 子供達の集中力を保つために、**同じ目的でも違った方法**でおこなう活動をいくつか用意しましょう。
- 7 子供達は「今、現実にあるもの」に興味を示し、理解します。教科書にある仮想の場面の英語ではなく、**現実の場面**で使う英語を教えましょう。
- 8 子供の体調や気分に合わせてるように、**レッスンプランは1つではなく、応用が利くような活動**をいくつか用意しておきましょう。
- 9 幼児や小学校低学年では**身体を大きく動かす活動**を多くしましょう。その際、指導者は率先して身体を使いましょう。
- 10 子供達の**答えが1つでない活動**を選びましょう。また、**子供達の答えを尊重**しましょう。
- 11 「知りたい」「聞きたい」「言いたい」と思わせるような子供の好奇心を刺激する活動や、**創造力を育成する活動**をおこないましょう。
- 12 「競争」するのではなく「**協力**」しておこなう活動を用意しましょう。
- 13 常に肯定的なクラスの雰囲気を演出し、**間違いが許されるクラスの雰囲気**を作りましょう。
- 14 I don't know. や I forgot. でも立派な答えです。**自信を持って**言えるようにしましょう。I don't know. (知らない)と伝えることからコミュニケーションが続くのです。

- 15 子供のどんな考えや答えでも、笑ったり否定したりするのはやめましょう。
- 16 文字の導入は大切ですが、つづり(spelling)を覚えさせるためのテストはやめましょう。
- 17 テストのために暗記するのではなく、**知りたい語彙を自らが調べる**学習態度を身に付けさせましょう。
- 18 文型・文法を、文法用語を使って説明するのはやめましょう。
- 19 **子供から英語を「引き出す」**工夫をしましょう。

例: Wh-疑問文で理解できない場合は、Yes. No. で答えられる質問をおこない、それでも答えられない場合は、答えの例をいくつか提示します。

T: Where do you live?

Do you live in Tokyo?

Tokyo? Yokohama? Chiba? (Yokohama と言った時、子供がうなずく)

Oh, you live in Yokohama. Please say, 'I live in Yokohama'. Good!

また、教える側も常に自分の指導法が正しいかどうかを確認する必要があります。
次のような、授業の反省のチェックリストを作っておくとよいでしょう。

- Did your children smile or laugh during the lesson?
- Were your children relaxed during the lesson?
- Did your children enjoy the lesson?
- Was your voice loud enough?
- Did you create a relaxing atmosphere during the lesson?
- Did your children learn during the lesson?
- Did you give each child a lot of encouragement and positive feedback?
- Did every child understand your lesson?
- Is every child improving?

1章 引用・参考文献

- 中本幹子 (1995) 『Learning World 3』テキスト(アブリコット) p.9
- Young, Joshua (1973) 「25 What Are Tails For?」『READING POWER BUILDER』(Science Research Associates, Inc.)
- Penfield, W. & Roberts, L. (1959) *Speech and Brain Mechanisms*. Princeton, N. J.: Princeton University Press. 上村忠雄・前田利男(訳) (1965) 『言語と大脳:言語と脳のメカニズム』(誠信書房)
- Whitaker, H. (1977) "Neurobiology of Language." In Carterette, E. C. & Friedman, M.P. (eds.) *Handbook of Perception, Vol. VII Language and Speech*. New York: Academic Press, Inc.
- Canale, M. & Swain, M. (1980) Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1: 1-47
- 三浦清進 (1991) 「8章 言語と会話のストラテジー—英語学習との関連から—」高橋順一・中山 治・御堂岡 潔・渡辺文夫編『異文化へのストラテジー』(川島書店) p.116
- 久保良英「幼児の言語発達」(児童研究所紀要5)
- Brown, H. D. (1987) *Principles of language learning and teaching*. Englewood Cliffs: Prentice Hall.
- Brown, H. D. (1994) *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy*. New Jersey: Prentice Hall Regents.
- 鈴木孝夫 (2000) 『英語はいらない!?!』(PHP新書)
- 中本幹子 (2000) 「小学校における英語教育—その課題に関する一考察—」(羽衣学園短期大学英語英文学研究紀要6) pp.45-61